

東北大学会計大学院

Tohoku University Accounting School

2026-2027



高度な分析力を有する 職業会計人になるために。



東北大学 会計大学院長
木村 史彦

教授
博士（経済学）（大阪大学）
日本経済会計学会 常務理事

東北大学会計大学院は2005年4月に専門職大学院として開設されました。開設以来、「高度な分析能力を持ち、かつ、国際的な感覚を身に付けた、経済社会を基礎から支える職業会計人を育成すること」を目的としてきました。本学が考える職業会計人には公認会計士、税理士などの資格保有者のみならず、専門家と「対話」ができる企業等における経理・財務担当者、そして実務とアカデミックの架橋ができる研究者も含まれます。

こうした目的を達成すべく、本会計大学院では会計分野とともに関連分野の授業科目を開講し、職業会計人に必要な知識を体系的に修得できる仕組みを設けております。さらに少人数教育を徹底することで、知識とそれを活かす力を養うよう工夫しております。会計の現場で求められる知識は日々変化します。長期間にわたって実務の最前線で活躍し続けるには、単に知識を有するだけではなく、それを常に更新（アップデート）する能力が求められますが、本会計大学院ではそうした能力の獲得を目指しています。

東北大学会計大学院は、博士学位を有した研究者教員と豊富な実務経験を有する実務家教員の指導の下、高い目標を有した学生同士で切磋琢磨して学修できる環境にあります。大学院での2年間は決して楽ではありませんが、その後のキャリアの形成に有用であることは多くの修了生が示してくれています。教職員一同、志のある皆さんを応援しております。ともに頑張りましょう。

CONTENTS

東北大学会計大学院長挨拶	02
東北大学会計大学院の特色	03
公認会計士コース	04
ビジネスアカウンティングコース	04
会計リサーチコース	05
東北大学会計大学院における特色のある科目	05
東北大学会計大学院の教員紹介	06
東北大学会計大学院 概要・入学案内	07

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院の特色

これからの日本経済の基盤となる会計・監査制度を支える、高度な分析力を有する職業会計人の養成を目指して。私たちはこの大きな目標を達成するために、特色あるプログラムを用意しています。

研究者教員と実務家教員による最先端の講義

本会計大学院は、博士学位を有する研究者教員に加えて、現場の第一線で活躍している公認会計士やエンジニア、官公庁で実際に行政に携わっている実務家教員が所属しています。研究者教員は主に理論的な科目を担当して研究面での指導にあたる一方で、実務家教員は実践的な科目や事例研究（ケーススタディ）科目を担当しています。また、コミュニケーション科目を通じ英語による情報発信力も養成しています。こうした教育環境の下、学生は理論に裏付けられた実践的な知識を学ぶことができます。

公認会計士試験・税理士試験とのリンケージ

本会計大学院は会計分野の専門職大学院として設置されており、公認会計士コースの学生は修了要件を満たした場合、公認会計士試験短答式試験で課されている4科目のうち、「企業法」を除く「財務会計論」、「管理会計論」、「監査論」の3科目の免除を受けることができます。他のコースの学生でも修了要件に加えて所定の単位を修得した場合には、この免除を受けることができます。

また、会計リサーチコースでは特定のテーマでリサーチペーパーを執筆して修了することで、税理士試験の一部科目免除も可能です。会計に関するテーマでリサーチペーパーを作成した場合は会計学に属する科目、法人税法に関するテーマでリサーチペーパーを作成した場合は税法に属する科目の一部免除を国税審議会に対して申請できます。

社会人の方に配慮した柔軟な履修プログラム

大学院で高度な知識を学び直したい社会人の方のために、本会計大学院では土曜日および夜間（18:00～）時間帯の開講科目を充実させており、会計リサーチコースおよびビジネスアカウンティングコースではそれらを受講するだけで修了に必要な科目の大部分をカバーできるようにしています。また、利便性の高い片平キャンパス（仙台駅から徒歩15分）での開講、長期履修制度や早期修了制度を通じて、仕事と両立しながら学び直したい社会人の方にも受講しやすい教育環境を整備しています。※長期履修制度、早期修了制度の適用には一定の条件がございます。

国立大学だから実現できる低廉な授業料、充実した設備

本会計大学院は、国立大学であることのメリットを活かし、低廉な授業料で質の高い講義を実施しています。また、1学年当たり40名の定員に対して専任教員17名を配置することで、きめ細かい少人数教育を行っています。施設面でも、定員分のデスクの確保、インターネット（Wi-Fi）接続環境の提供など、充実したものとなっています。



その他の会計大学院の特色はWEBサイトをご覧ください。
<http://www.econ.tohoku.ac.jp/kaikei/about/characteristic/index.html>

公認会計士コース

入学定員30名

——高度な分析力を有する公認会計士を養成するためのコース

公認会計士コースは、高度な分析力を有し、国際的に活躍できる公認会計士を養成することを目的としたコースです。将来に公認会計士となり現場の第一線で長く活躍していくためには、新しい知識を柔軟に吸収し、それを適切に表現できる能力を身につけることが必要です。また、職業会計人としての職業倫理観、国際的な感覚を備えることも求められます。そこで、公認会計士コースでは、簿記、原価計算、財務会計、管理会計、監査といったオーソドックスな会計科目のみならず、IFRS（国際財務報告基準）、内部統制制度、会計職業倫理等の講義科目の履修を通じて、これからの職業会計人として必要となる高度な知識と実践的応用力を同時に身に付けることを目指しています。

本コースを修了すると、公認会計士試験短答式試験 4 科目の一部科目（財務会計論、管理会計論、監査論）が免除されます。

ビジネス アカウンティングコース

入学定員5名

——会計の今を学び、それを活かす人材を養成するためのコース

ビジネスアカウンティングコースは、会計およびその周辺領域に関する高度な知識と、そうした知識を駆使した実践的応用力の獲得を目指す方のために設置されたコースです。IFRS（国際財務報告基準）採用企業の広がり、コーポレートガバナンスや内部統制の強化の流れの中で、企業会計・監査に関する高度な知識やそれを生かした高度な分析能力、ディスカッション能力は、民間企業、コンサルティングファーム、官公庁等への就職、あるいは在職者のスキルアップに不可欠なものとなっています。ビジネスアカウンティングコースでは会計・監査とその周辺領域に関する最先端のトピックを取り扱う講義科目を柔軟に選択でき、受講生一人ひとりが自身の問題意識や関心に合わせて知識を習得することが可能です。また、ワークショップや事例研究科目など少人数の課題解決型講義を通じて、獲得した知識を体系化して発信する能力を身につけることができます。

本コースは上記の科目設定に加えて、長期履修制度、早期修了制度の適用※1、夜間・土曜日開講科目を中心とした履修による修了が可能となっており、とりわけ社会人の学び直しに配慮したコースとなっています。

会計リサーチコース

入学定員5名

——問題発見能力と問題解決能力を有する職業会計人を養成するためのコース

会計リサーチコースは、会計研究者を目指す方や、これまでの実務経験を体系化し、リサーチペーパー（修士論文に相当、以下RP）にまとめることを目指す方のためのコースです。本コースでは、現役の公認会計士をはじめとする多くの実務家教員による実践的な教育を受けつつ、主に研究者教員が指導する演習科目を通じて、RP作成のための指導を受けることができます。さらに、将来、大学等の研究機関への就職を考える方には、博士後期課程への進学に向けた指導を実施しております※2。また、本コースを修了し会計に関するテーマでRPを作成した場合は税理士試験の会計学に属する科目、法人税法に関するテーマでRPを作成した場合は税理士試験の税法に属する科目の一部免除を国税審議会に対して申請することができます。

本コースもビジネスアカウンティングコースと同様に長期履修制度、早期修了制度の適用※1、夜間・土曜日開講科目を中心とした履修による修了が可能となっており、社会人の学び直しに配慮したコースとなっています。

※1 長期履修制度、早期修了制度の適用には一定の条件がございます。

※2 会計大学院修了後、リサーチペーパーが優秀と認められた場合には、本学大学院経済学研究科博士後期課程に進学することができます。

東北大学会計大学院における特色のある科目

IFRS（国際財務報告基準）関連科目

日本におけるIFRSの採用企業は200社を超え、時価総額ベースでは4割超に相当しています。こうした状況の下、公認会計士のみならず企業の財務・経理担当者にとってもIFRSの知識は不可欠となっています。

本会計大学院では、IFRS関連科目を3科目設定しており、IFRSの基礎から応用まで学んだ上で、事例研究を通じて最先端の状況も把握することができます。

ワークショップ科目

ワークショップ科目は、学部におけるゼミに近い科目です。各科目で設定されるテーマに沿って、学生参加型の授業が実施されます。テーマとしては企業の財務特性や行動の実証分析、経済学と統計学の手法を用いて経営者の意思決定や業績評価に関する分析など、年度毎に様々なものが設定されます。教員との議論、あるいは学生同士の議論を通じて、分析能力やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高めることができます。

英語コミュニケーション科目

グローバル化が進んだ現代では、日本企業に就職した場合でも海外の方とのコミュニケーションやプレゼンテーション、英語で書かれた文献を読むことが求められます。そこで、本会計大学院では英語を用いた実践的なコミュニケーションやプレゼンテーションの講義を行っています。また、共通言語が英語である学術界で活躍している研究者教員からは、最先端の英語文献の読解技術を学ぶことができます。

倫理科目

企業における会計不正が後を絶たない中、公認会計士をはじめとする会計専門職の重要なミッションの一つは会計不正の発見と防止にあります。そのため、会計専門職に従事する者には高い職業倫理観が求められます。職業倫理に関する教育は日本の大学では軽視されてきましたが、本学では3科目の倫理科目を設定し、法令等の学習、過去の事例分析、ディベートを通じ、高い倫理観を有した職業会計人の養成を目指しています。



➡ 各コースおよび開講科目の詳細はWEBサイトをご覧ください。

WEBでは、各コースの履修モデルもご紹介しております。

http://www.econ.tohoku.ac.jp/kaikei/education_and_research/index.html

東北大学会計大学院の教員紹介

東北大学会計大学院には研究者教員と実務家教員が所属しており、最先端の学術研究の知見と実務経験に基づいた教育を提供できる体制となっています。以下、一部の教員からのメッセージを紹介します（※役職は2025年6月時点のものです）。

実務家教員



小粥 純子 教授 公認会計士・税理士

東証プライム上場企業 社外取締役、東京都監査委員、仙台市経営戦略会議委員等を歴任
担当科目：監査計画・内部統制

内部統制や監査実務を理解することにより、企業のみならず、国、地方公共団体、社会福祉法人、医療法人、公益法人、NPO 法人等のあらゆる組織での活躍の場が広がります。特に、内部統制には、経営や組織運営の効率化、トラブル回避（損失の回避）などのメリットがあり、業種、業態、規模によって各組織に合った内部統制を整備・運用することができますから、極めて重要な分野です。ぜひ一緒に勉強しましょう。



細尾 忠敬 教授 公認会計士

複数の監査法人において監査業務に従事、また、日本公認会計士協会の IT 委員会等の専門委員として活動
担当科目：監査制度

大手、準大手、中小と様々な規模の監査法人で、通常の会計監査から IT を利用した監査等幅広い業務に対応した経験を生かして、皆さんに監査実務についての知識を伝えようと皆さんとこれからの公認会計士の業務について考えていきたいと思っています。

研究者教員



松田 康弘 准教授 博士（経済学）（京都大学）

担当科目：コストマネジメント

会計情報の使われ方が、管理者を含むステークホルダーにどのような影響を与えるかを研究しています。情報がどのように扱われるかを計算構造とともに丁寧に見ていきながら、業績評価と意思決定がどうあるべきかを学んでいきましょう。



吉永 裕登 准教授 博士（商学）（一橋大学）

担当科目：財務会計

1 社 1 社の財務会計情報をそのまま活用するのではなく、業種ごとや国ごとに平均・合計などして一まとめに「集約（aggregate）」した集約会計情報の情報内容と活用方法に注目して、研究しています。講義では、楽しくわかりやすい説明を心がけたいと思います。



➡ 全教員のプロフィールとメッセージはWEBサイトの教員紹介をご覧ください。
<http://www.econ.tohoku.ac.jp/kaikei/about/staff/index.html>

東北大学会計大学院 概要

東北大学会計大学院（経済学研究科 会計専門職専攻）

設置形態	専門職大学院	設 置 者	国立大学法人東北大学
設 置 年	2005 年 4 月	学位名称	会計修士（専門職）
標準修業年限	2 年（長期履修制度〔2 年半～ 4 年〕、早期修了制度〔1 年または 1 年半〕あり） ※早期修了制度は会計リサーチコースおよびビジネスアカウンティングコースのみ適用可能です。		
入学定員	1 学年 40 名 (公認会計士コース 30 名、会計リサーチコース5名、ビジネスアカウンティングコース5名)		

東北大学会計大学院 入学案内

東北大学会計大学院では以下の 4 つのタイプの入学試験を実施しています。
※出願資格、日程、試験科目その他の詳細につきましては、募集要項をご覧ください。

入試区分	概 要
一般選抜 (全コース対象)	全てのコースを志願する方を対象とする入試です。公認会計士コース志願者は筆答試験（会計学）、ビジネスアカウンティングコース・会計リサーチコース志願者は筆答試験（会計学）と口述試験が試験科目となります。試験は 8 月（または 9 月）と 2 月に実施され*、8 月（または 9 月）実施分は 10 月及び翌年 4 月入学者を対象、2 月実施分は同年 4 月入学者を対象とする試験となります。
自己推薦入試 (会計リサーチコース・ビジネスアカウンティングコース対象)	会計リサーチコース・ビジネスアカウンティングコース志願者を対象とする入試です。書類選考（志願理由書および志願者が自ら選択して提出した学力評価の参考となる資料に基づく審査）および口述試験による選考となります。試験（口述試験）は 8 月（または 9 月）と 2 月に実施され*、8 月（または 9 月）実施分は 10 月及び翌年 4 月入学者を対象、2 月実施分は同年 4 月入学者を対象とする試験となります。 ※東北大学経済学部 に所属している学生は本入試区分を選択することができません。
3 年次学生を対象とする試験 (全コース対象)	学部 3 年次に在籍している者で所定の単位を優秀な成績で修得したと本会計大学院において認めた学生を対象とする試験（いわゆる飛び級入試）です。試験科目は一般選抜と同一で、試験は 2 月にのみ実施されます（入学時期は同年 4 月）。
東北大学経済学部生を対象とする試験 (全コース対象)	東北大学経済学部 に在籍し、優秀な成績で卒業見込みの者を対象とする試験です。試験科目は口述試験のみで、試験は 5 月に実施されます（入学時期は同年 10 月または翌年 4 月）。

* 8 月（または 9 月）及び 2 月の各入試では、複数のコース及び入試区分に同時に出願することはできません。

過去問題について

過去の筆頭試験（会計学）の問題に関する情報につきましては以下のページで開示しております。
<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/kakomon.html>



➡ 詳細はWEBサイトの入学案内をご覧ください。
<http://www.econ.tohoku.ac.jp/kaikei/admission/index.html>

会計大学院アクセスマップ



片平キャンパスへのアクセス

JR仙台駅より 徒歩15分

仙台市営バス仙台駅前11番のりばより

- 八木山動物公園駅行
- 緑ヶ丘三丁目行
- 西高校入口行 乗車
- 東北大正門前バス停下車

仙台市地下鉄

- 東西線 青葉通一番町駅より徒歩約10分
- 南北線 五橋駅より徒歩約10分



Tohoku University Accounting School
東北大学会計大学院

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1

URL <http://www.econ.tohoku.ac.jp/kaikei/>

【問い合わせ先】東北大学会計大学院(片平事務室)

TEL:022-217-6276 FAX:022-217-6278

E-mail: eco-in@grp.tohoku.ac.jp

